

2024年度 東京成徳大学・東京成徳短期大学 卒業時アンケート集計結果

I 調査の概要

- (1) 目的 本学のアセスメント・ポリシーに基づき、教育の質の向上を目指すPDCAの一環として、教育の効果を検証し、教育改善を図るため、卒業予定者対象に、ディプロマ・ポリシー（短大は学習成果）の達成にかかわる学生の自己評価を中心とする卒業時アンケート調査を実施する。
- (2) 対象 2024年度の大学・短大卒業予定者
- (3) 方法 Microsoft社FormsによるWeb調査、記名式
- (4) 期間 大学：2025年1月10日（金）～3月20日（木） 短大：2025年1月7日（火）～3月14日（金）
- (5) 回収状況 （ ）内は昨年度

	回答数		対象者数	回収率	
大学全体	219	(196)	449	48.8%	(37.3%)
国際学科	18	(23)	52	34.6%	(37.7%)
臨床心理学科	47	(42)	102	46.1%	(39.3%)
健康・スポーツ心理学科	35	(37)	39	89.7%	(56.1%)
子ども学科	75	(52)	136	55.1%	(34.9%)
経営学科	44	(42)	120	36.7%	(29.4%)
短期大学（幼児教育科）	73	(62)	113	64.6%	(72.9%)

II ディプロマポリシーの達成度（学科別）

※各学科のディプロマポリシーは下記に掲載

国際学科

DP	身についた	ある程度身についた	あまり身につかなかった	身につかなかった
①	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
②	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
③	38.9%	61.1%	0.0%	0.0%
④	27.8%	61.1%	11.1%	0.0%

臨床心理学科

DP	身についた	ある程度身についた	あまり身につかなかった	身につかなかった
①	46.8%	51.1%	2.1%	0.0%
②	34.0%	59.6%	6.4%	0.0%
③	44.7%	48.9%	6.4%	0.0%
④	38.3%	55.3%	6.4%	0.0%

健康・スポーツ心理学科

①	34.3%	62.9%	2.9%	0.0%
②	37.1%	54.3%	8.6%	0.0%
③	40.0%	48.6%	11.4%	0.0%
④	34.3%	62.9%	2.9%	0.0%
⑤	42.9%	42.9%	11.4%	2.9%

子ども学科

①	60.0%	38.7%	1.3%	0.0%
②	50.7%	48.0%	1.3%	0.0%
③	50.7%	48.0%	1.3%	0.0%
④	46.7%	50.7%	2.7%	0.0%
⑤	53.3%	44.0%	2.7%	0.0%

経営学科

①	22.7%	70.5%	6.8%	0.0%
②	25.0%	72.7%	2.3%	0.0%
③	18.2%	59.1%	22.7%	0.0%
④	20.5%	68.2%	11.4%	0.0%
⑤	20.5%	63.6%	15.9%	0.0%

幼児教育科 ※学習成果にて測定

①	54.8%	45.2%	0.0%	0.0%
②	64.4%	35.6%	0.0%	0.0%
③	63.0%	35.6%	1.4%	0.0%
④	53.4%	41.1%	5.5%	0.0%
⑤	61.6%	38.4%	0.0%	0.0%

(参考) 大学(2021年度入学者向け)のディプロマポリシー

大 学 国際学科 ディプロマポリシー
①自国の文化に関する理解を基礎にして、国際関係、地域研究およびさまざまな背景を持つ多文化に対する理解を深め、幅広い知識を習得していること ②専門とする外国語について十分な言語運用能力をもち、ICT スキル等を活用できるグローバルコミュニケーション能力があること ③身についた専門知識や国際感覚に基づいて、異なる国、文化の人たちと協働し、主体的に課題発見・問題解決ができること ④社会人基礎力を備えた職業人になるために必要な教養および職業力を身につけていること
大 学 臨床心理学科 ディプロマポリシー
①心理学の基本的な知識を修得していること ②臨床心理学の専門的知識と技法を修得していること ③心のケア、支援にかかわる職業につくための基本的能力を身に付けていること ④社会人基礎力を備えた職業人になるために必要な教養、および就業力を身に付けていること
大 学 健康・スポーツ心理学科 ディプロマポリシー
①健康・スポーツ心理学とウェルネスの基本的な知識を修得していること ②健康心理学、カウンセリング、健康政策の専門的知識・技能を修得していること ③スポーツ心理学、メンタルトレーニングの専門的知識・技能を修得していること ④ポジティブ心理学、フィットネストレーニングの専門的知識・技能を修得していること ⑤社会人基礎力を備えた職業人になるために必要な教養、および就業力を身に付けていること
大 学 子ども学科 ディプロマポリシー
①子どもと子育てについての基本的、専門的な知識を身に付け、理解を深めていること ②個別のケースにおいて、子どもにかかわる諸科学の知見を総合し、適切な理解と援助をすすめる基礎的な素養を獲得していること ③乳幼児期から児童期にかけての子どもを対象とする教育、保育、学修支援の場において必要とされる知識、技術を修得していること ④子どもの表現活動及び児童文化にかかわる理論と技術を深めていること ⑤社会人基礎力を備えた職業人になるために必要な教養、および就業力を身につけている
大学 経営学科 ディプロマポリシー
①経営に関する基礎的な知識を修得しているとともに、これを応用できる基礎的能力を身につけていること ②経営を広い視野から位置づけられるように経営学の関連領域についても基本的な知識を修得していること ③企業において現実に経営するための知識について深い理解をもち、実践的に問題解決できる能力をもっていること ④現代社会の中で今後有望なビジネス分野に関する実践的な知識が身についていること ⑤社会人基礎力を備えた職業人になるために必要な教養、および就業力を身につけていること

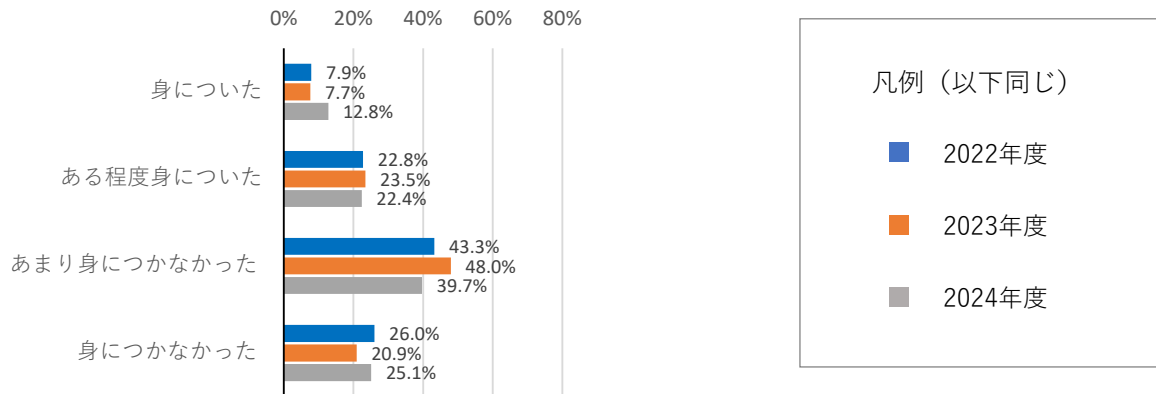
幼児教育科(2023年度入学者向け)学習成果

短期大学 幼児教育科 学習成果の達成度
①本学の教育を通して、保育者として必要な基礎的知識と教養、専門的知識と技能、研究する力を習得している。 ②本学の教育及び行事を通して、保育や子どもに関わる企画力、指導力、課題発見能力などの実践力や即応力を習得している。 ③本学の教育及び行事を通して、社会人、保育者として求められるコミュニケーション能力と責任感、倫理観、自己研鑽能力を習得している。 ④本学の教育を通して、リテラシー、論理的思考力、協同的課題解決能力を習得している。 ⑤本学での学生生活を通して、自己理解を深めながら主体的に学習を進め、ふさわしい進路選択をすることができる。

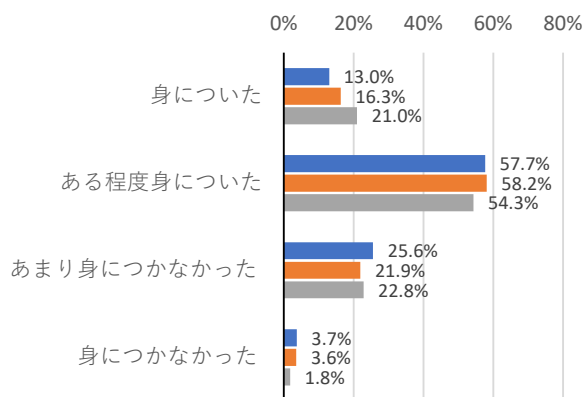
大学_III 下記の学修内容はどの程度身につきましたか（大学全体）

※学科別集計は下記に掲載

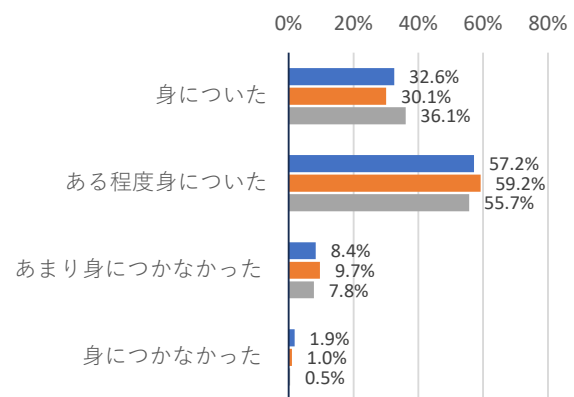
7. 外国語能力



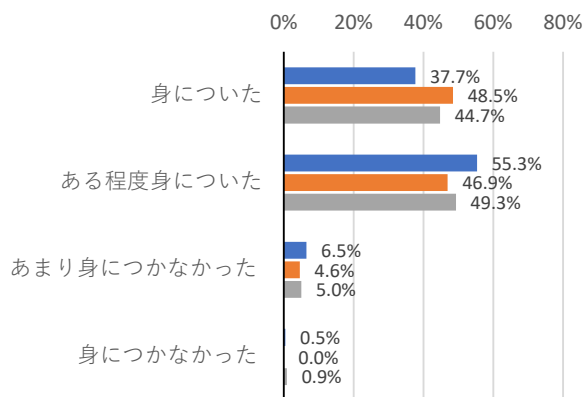
8. ICTリテラシー（情報通信技能）



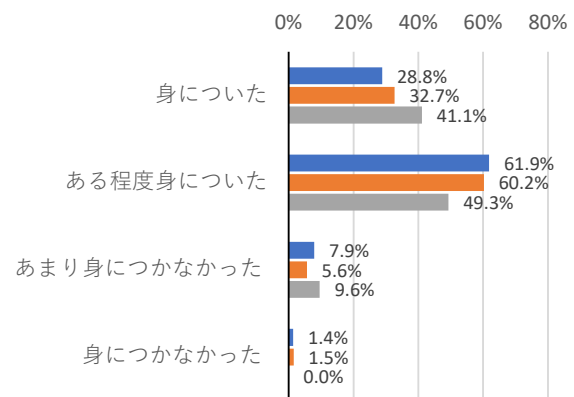
9. 幅広い知識と教養・一般常識



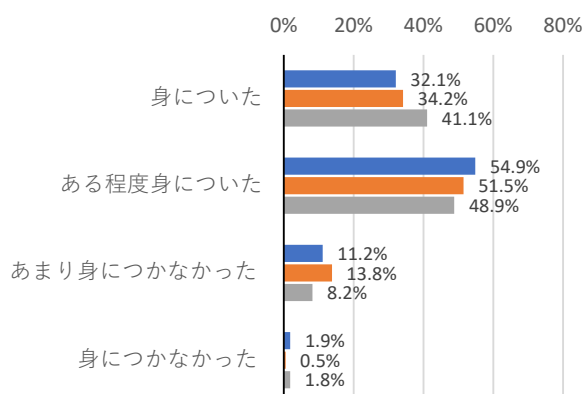
10. レポートや論文を書く力



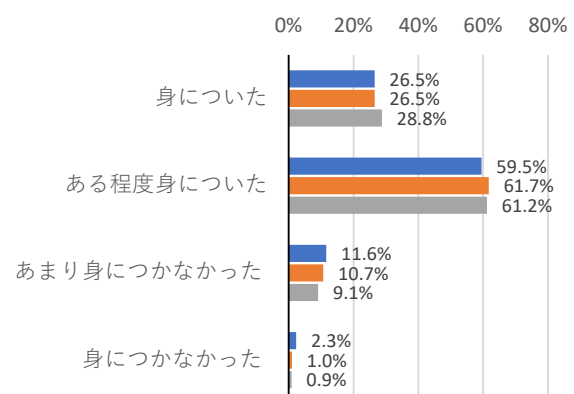
11. 専門的な知識とスキル



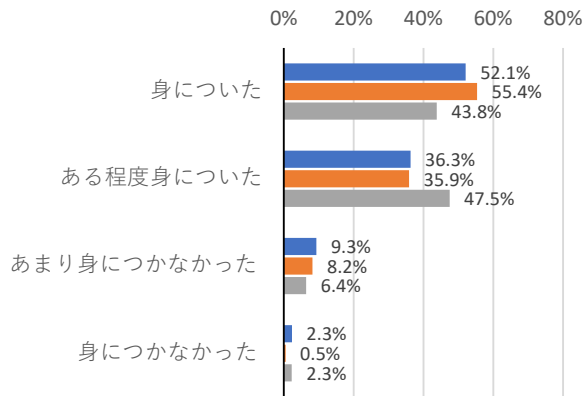
12. 自主性・主体性



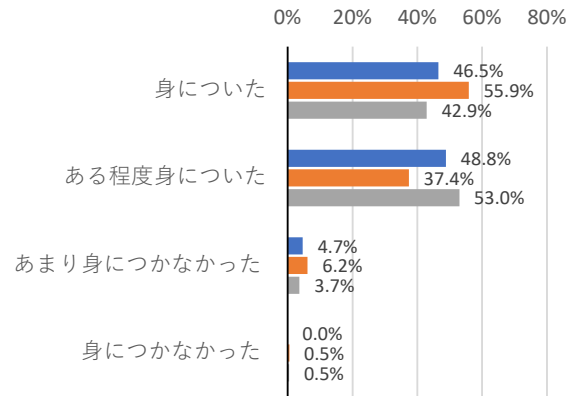
13. 課題発見と解決能力



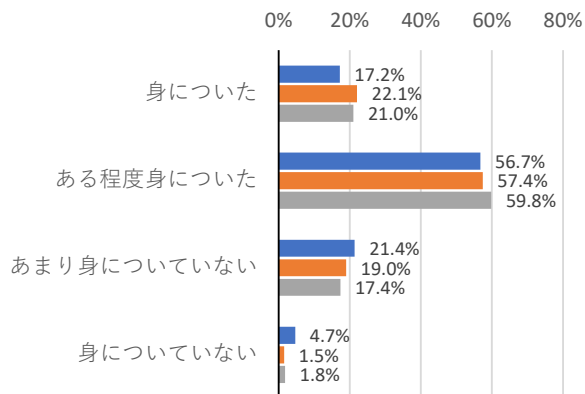
14. 協働性(一緒に取り組む力) (無回答 臨床:1)



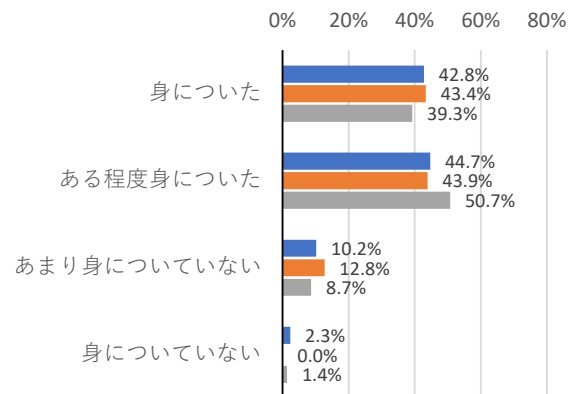
15. 自分自身のものの見方・考え (無回答 健スポ:1)



16. プレゼンテーション力 (無回答 健スポ:1)



17. コミュニケーション能力



大学_III-2 下記の学修内容はどの程度身につきましたか (学科別、2024年度)

7. 外国語能力

	身について	ある程度身について	あまり身につかなかった	身につかなかった
国際	61.1%	33.3%	5.6%	0.0%
臨床	6.4%	10.6%	48.9%	34.0%
健スポ	14.3%	14.3%	42.9%	28.6%
子ども	8.0%	29.3%	44.0%	18.7%
経営	6.8%	25.0%	34.1%	34.1%

8. ICTリテラシー (情報通信技能)

	身について	ある程度身について	あまり身につかなかった	身につかなかった
国際	27.8%	50.0%	22.2%	0.0%
臨床	19.1%	48.9%	27.7%	4.3%
健スポ	28.6%	62.9%	8.6%	0.0%
子ども	17.3%	48.0%	32.0%	2.7%
経営	20.5%	65.9%	13.6%	0.0%

9. 幅広い知識と教養・一般常識

	身について	ある程度身について	あまり身につかなかった	身につかなかった
国際	50.0%	44.4%	5.6%	0.0%
臨床	34.0%	55.3%	10.6%	0.0%
健スポ	40.0%	51.4%	8.6%	0.0%
子ども	38.7%	56.0%	5.3%	0.0%
経営	25.0%	63.6%	9.1%	2.3%

10. レポートや論文を書く力

	身について	ある程度身について	あまり身につかなかった	身につかなかった
国際	38.9%	55.6%	5.6%	0.0%
臨床	44.7%	48.9%	4.3%	2.1%
健スポ	45.7%	51.4%	2.9%	0.0%
子ども	52.0%	45.3%	2.7%	0.0%
経営	34.1%	52.3%	11.4%	2.3%

11. 専門的な知識とスキル

	身について	ある程度身について	あまり身につかなかった	身につかなかった
国際	44.4%	33.3%	22.2%	0.0%
臨床	31.9%	61.7%	6.4%	0.0%
健スポ	40.0%	51.4%	8.6%	0.0%
子ども	58.7%	40.0%	1.3%	0.0%
経営	20.5%	56.8%	22.7%	0.0%

12. 自主性・主体性

	身について	ある程度身について	あまり身につかなかった	身につかなかった
国際	61.1%	33.3%	5.6%	0.0%
臨床	34.0%	51.1%	10.6%	4.3%
健スポ	42.9%	48.6%	8.6%	0.0%
子ども	49.3%	46.7%	4.0%	0.0%
経営	25.0%	56.8%	13.6%	4.5%

13. 課題発見と解決能力

国 際	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%
臨 床	25.5%	59.6%	12.8%	2.1%
健スポ	25.7%	68.6%	5.7%	0.0%
子ども	34.7%	62.7%	2.7%	0.0%
経 営	22.7%	59.1%	15.9%	2.3%

14. 協働性（一緒に取り組む力）

国 際	38.9%	44.4%	11.1%	5.6%
臨 床	48.9%	48.9%	2.1%	0.0%
健スポ	31.4%	60.0%	2.9%	5.7%
子ども	58.7%	34.7%	6.7%	0.0%
経 営	25.0%	59.1%	11.4%	4.5%

15. 自分自身のものの見方・考え方

国 際	38.9%	55.6%	5.6%	0.0%
臨 床	51.1%	42.6%	6.4%	0.0%
健スポ	45.7%	51.4%	2.9%	0.0%
子ども	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%
経 営	27.3%	63.6%	6.8%	2.3%

16. プレゼンテーション力

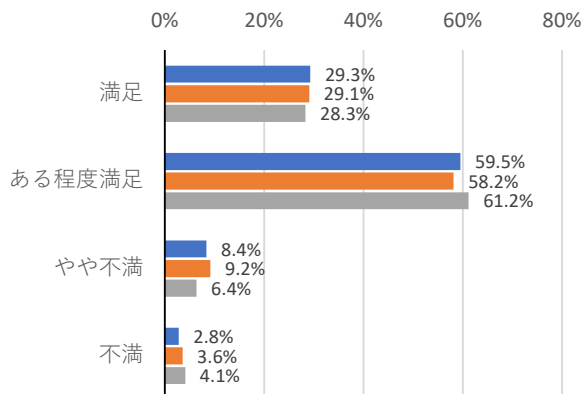
国 際	22.2%	50.0%	22.2%	5.6%
臨 床	10.6%	63.8%	23.4%	2.1%
健スポ	28.6%	60.0%	8.6%	2.9%
子ども	24.0%	62.7%	13.3%	0.0%
経 営	20.5%	54.5%	22.7%	2.3%

17. コミュニケーション能力

国 際	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%
臨 床	40.4%	55.3%	4.3%	0.0%
健スポ	40.0%	45.7%	8.6%	5.7%
子ども	45.3%	46.7%	8.0%	0.0%
経 営	29.5%	56.8%	11.4%	2.3%

大学_IV-1 下記の本学の取り組みについてどの程度満足していますか（大学全体） ※学科別集計は下記に掲載

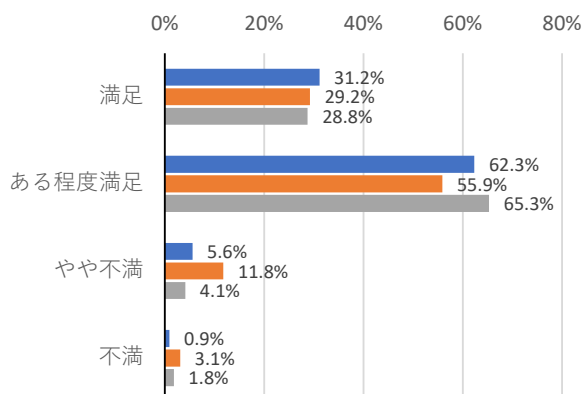
18. カリキュラム



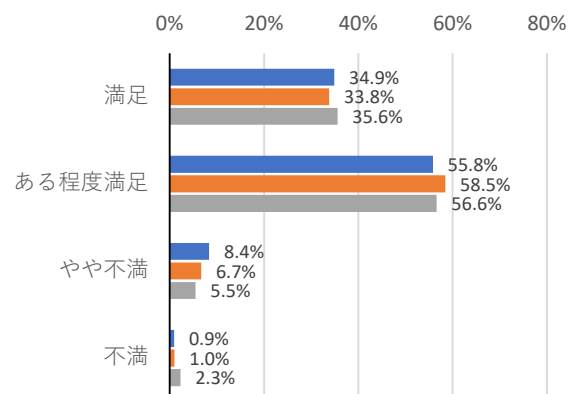
凡例（以下同じ）



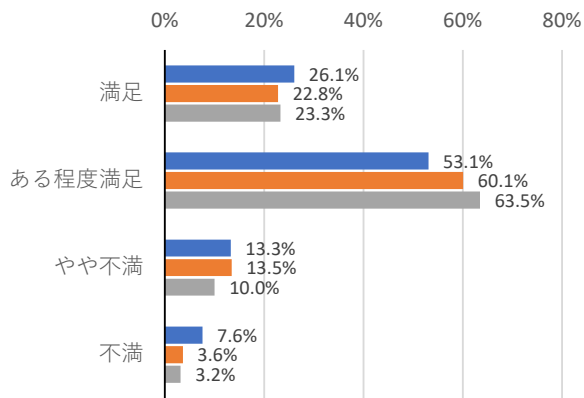
19. 授業の進め方



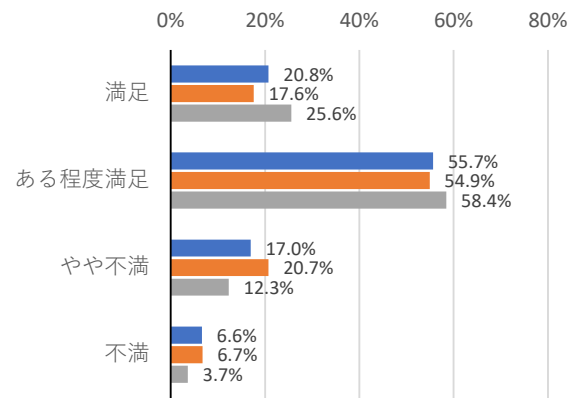
20. 成績評価



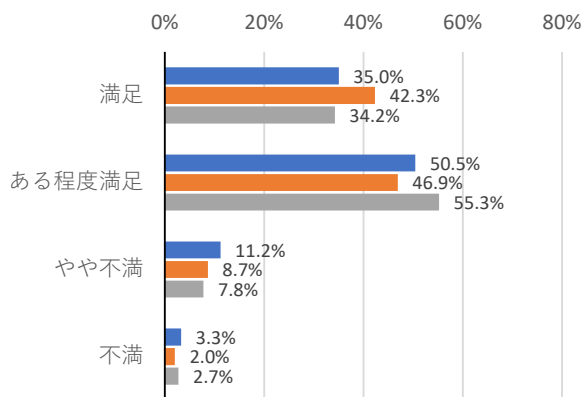
21. 留学制度



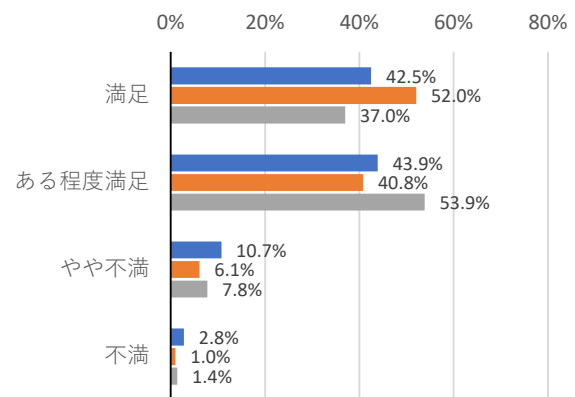
22. 課外活動



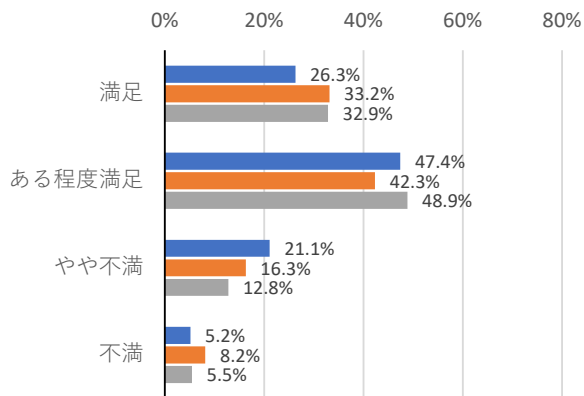
23. 学生支援（困ったときの支援）



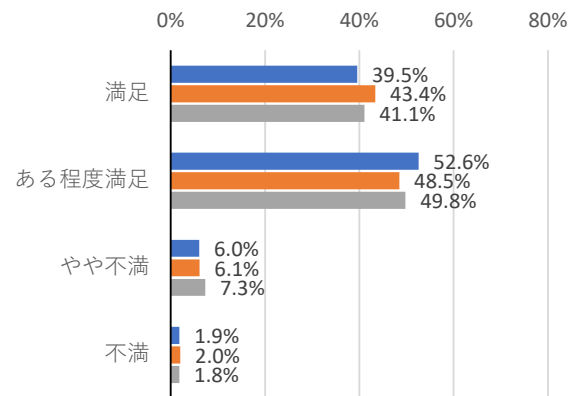
24. 就職支援



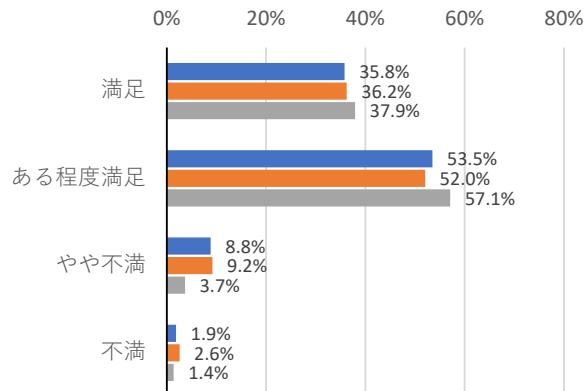
25. 施設・設備



26. 教員の対応



27. 職員の対応



大学_IV-2 下記の本学の取り組みについてどの程度満足していますか（学科別、2024年度）

18. カリキュラム

	満 足	ある程度 満足	やや 不満	不 満
国 際	38.9%	38.9%	11.1%	11.1%
臨 床	36.2%	61.7%	2.1%	0.0%
健スポ	25.7%	60.0%	11.4%	2.9%
子ども	29.3%	62.7%	6.7%	1.3%
経 営	15.9%	68.2%	4.5%	11.4%

20. 成績評価

国 際	44.4%	38.9%	5.6%	11.1%
臨 床	46.8%	48.9%	4.3%	0.0%
健スポ	37.1%	54.3%	5.7%	2.9%
子ども	30.7%	65.3%	2.7%	1.3%
経 営	27.3%	59.1%	11.4%	2.3%

22. 課外活動

国 際	27.8%	44.4%	27.8%	0.0%
臨 床	25.5%	66.0%	8.5%	0.0%
健スポ	31.4%	48.6%	11.4%	8.6%
子ども	25.3%	66.7%	4.0%	4.0%
経 営	20.5%	50.0%	25.0%	4.5%

24. 就職支援

国 際	33.3%	55.6%	11.1%	0.0%
臨 床	38.3%	51.1%	10.6%	0.0%
健スポ	54.3%	37.1%	5.7%	2.9%
子ども	30.7%	61.3%	8.0%	0.0%
経 営	34.1%	56.8%	4.5%	4.5%

26. 教員の対応

国 際	55.6%	22.2%	11.1%	11.1%
臨 床	57.4%	42.6%	0.0%	0.0%
健スポ	42.9%	45.7%	8.6%	2.9%
子ども	38.7%	56.0%	5.3%	0.0%
経 営	20.5%	61.4%	15.9%	2.3%

19. 授業の進め方

	満 足	ある程度 満足	やや 不満	不 満
国 際	27.8%	55.6%	11.1%	5.6%
臨 床	40.4%	55.3%	4.3%	0.0%
健スポ	25.7%	71.4%	2.9%	0.0%
子ども	29.3%	68.0%	1.3%	1.3%
経 営	18.2%	70.5%	6.8%	4.5%

21. 留学制度

国 際	55.6%	22.2%	16.7%	5.6%
臨 床	19.1%	74.5%	6.4%	0.0%
健スポ	31.4%	54.3%	8.6%	5.7%
子ども	20.0%	68.0%	9.3%	2.7%
経 営	13.6%	68.2%	13.6%	4.5%

23. 学生支援（困ったときの支援）

国 際	33.3%	55.6%	5.6%	5.6%
臨 床	40.4%	55.3%	4.3%	0.0%
健スポ	40.0%	51.4%	2.9%	5.7%
子ども	32.0%	58.7%	8.0%	1.3%
経 営	27.3%	52.3%	15.9%	4.5%

25. 施設・設備

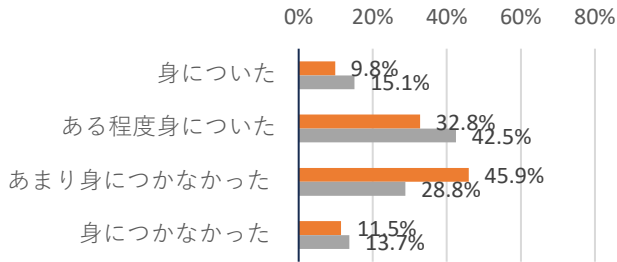
国 際	44.4%	33.3%	22.2%	0.0%
臨 床	44.7%	44.7%	10.6%	0.0%
健スポ	20.0%	57.1%	8.6%	14.3%
子ども	33.3%	49.3%	12.0%	5.3%
経 営	25.0%	52.3%	15.9%	6.8%

27. 職員の対応

国 際	44.4%	50.0%	5.6%	0.0%
臨 床	53.2%	46.8%	0.0%	0.0%
健スポ	34.3%	57.1%	5.7%	2.9%
子ども	37.3%	57.3%	4.0%	1.3%
経 営	22.7%	70.5%	4.5%	2.3%

短大_III 下記の学修内容はどの程度身につきましたか（短期大学全体、2024年度）

7. 外国語能力

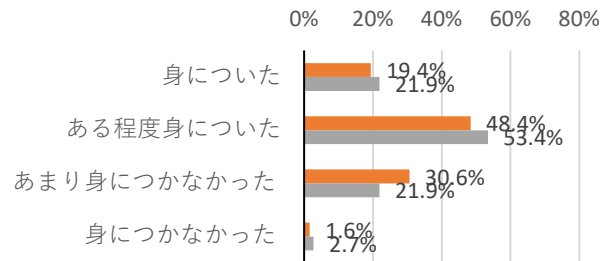


凡例（以下同じ）

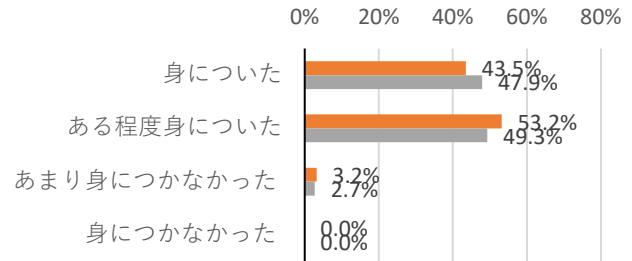
■ 2023年度

■ 2024年度

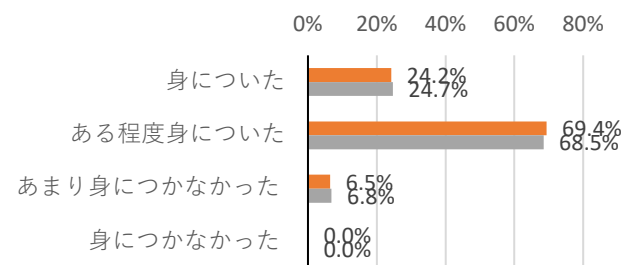
8. ICTリテラシー（情報通信技能）



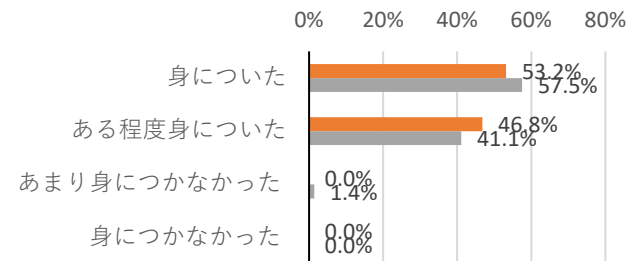
9. 幅広い知識と教養・一般常識



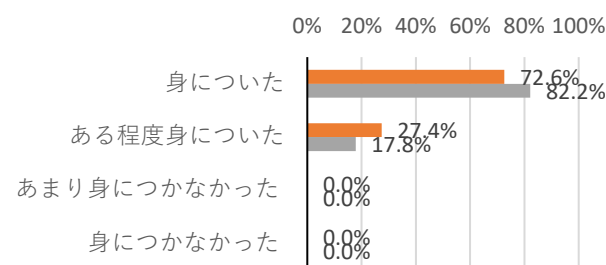
10. レポートや論文を書く力



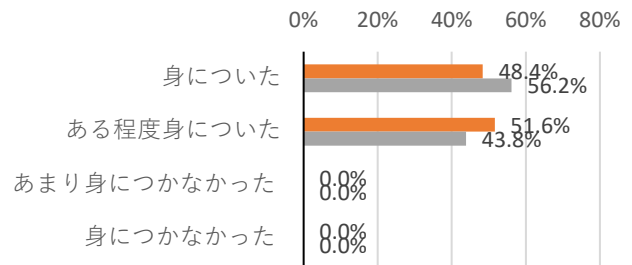
11. 保育に携わるための専門的な知識とスキル



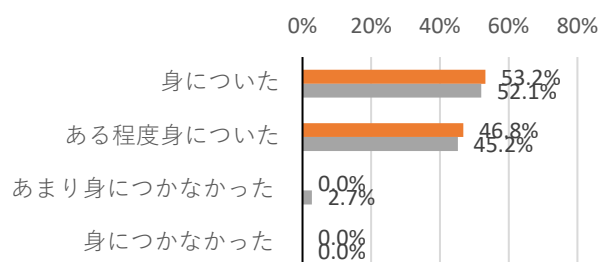
12. 子どもの成長を温かく見守り保育しようとする姿勢



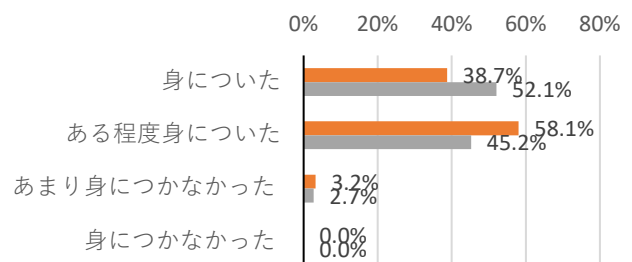
13. いろいろな状況に応じて行動する柔軟な対応力



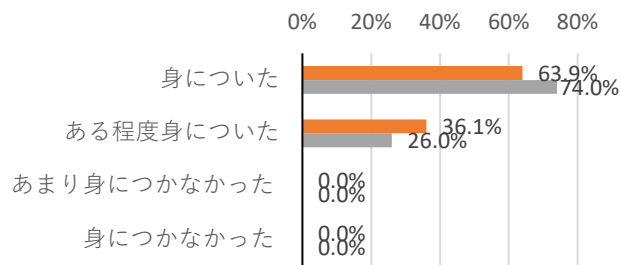
14. 自主性・主体性



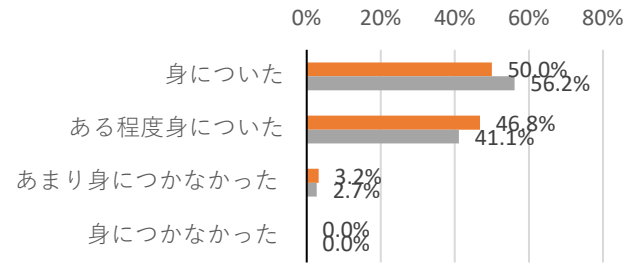
15. 課題発見と解決能力



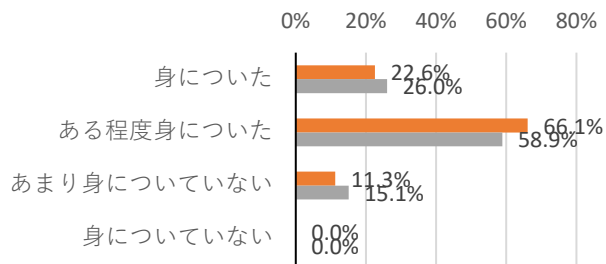
16. 協働性(一緒に取り組む力)



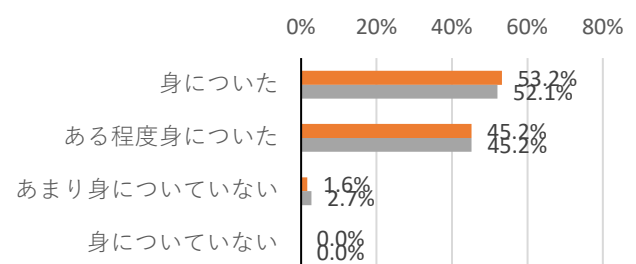
17. 自分自身のものの見方・考え方



18. プレゼンテーション力

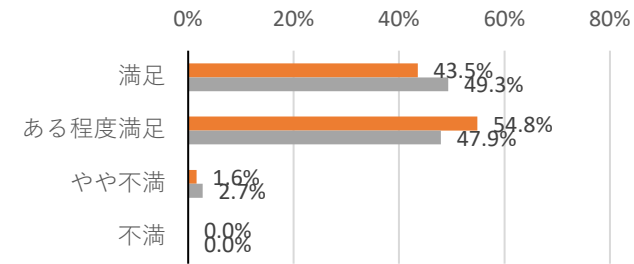


19. コミュニケーション能力

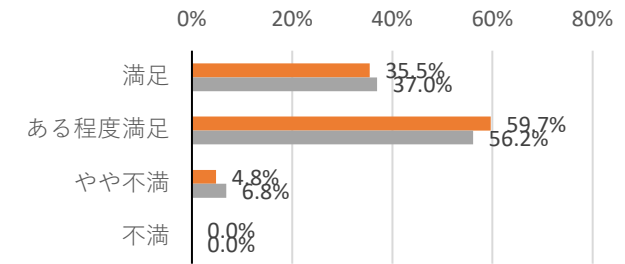


短大_IV 下記の本学の取り組みについてどの程度満足していますか（短期大学、2024年度）

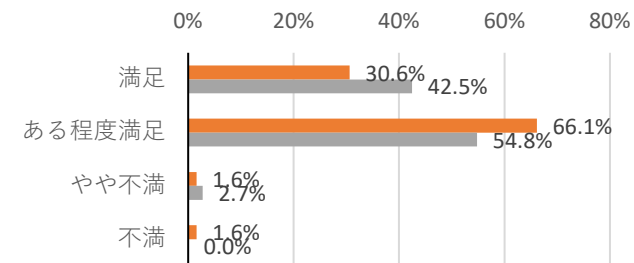
18. カリキュラム



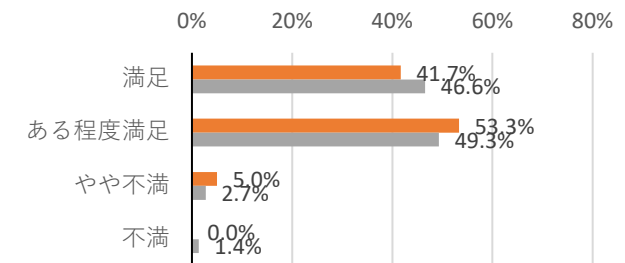
19. 授業の進め方



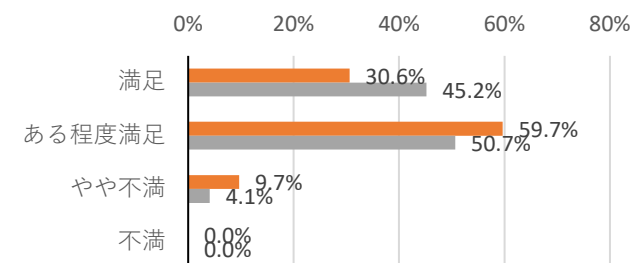
20. 成績評価



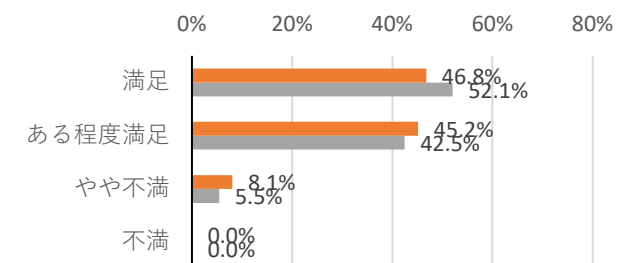
21. 留学制度



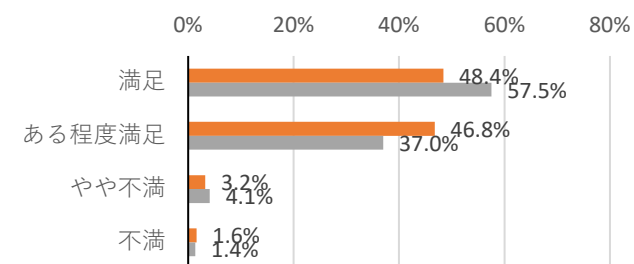
22. 課外活動



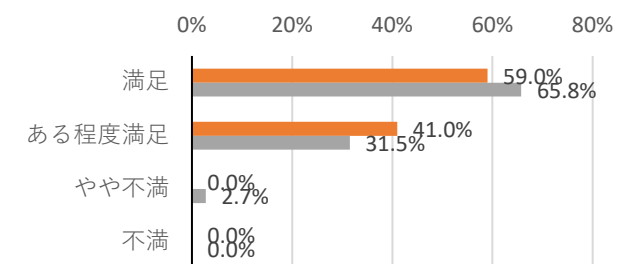
23. 学生支援（困ったときの支援）



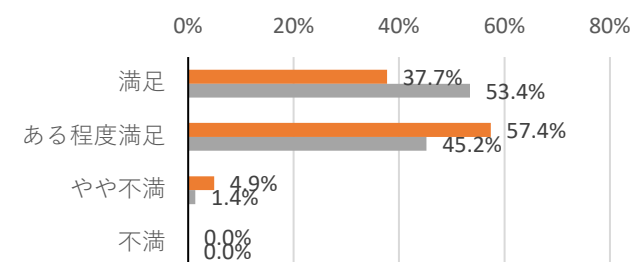
24. 就職支援



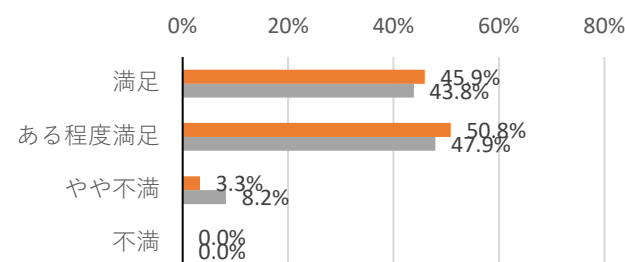
25. 施設・設備



26. 教員の対応



27. 職員の対応



2024 年度 東京成徳短期大学・東京成徳大学(大学全体・学科別) 卒業時アンケート結果の主要 Facts

1. ディプロマポリシーの達成度（4 点満点，以下同じ）

	DP番号	平均値 1)、2)		
		2024	2023	過去4か年
国 際	①	3.4	3.2	3.3
	②	3.4	3.1	3.2
	③	3.4	3.1	3.2
	④	3.2	2.8	3.1
臨床心理	①	3.4	3.5	3.3
	②	3.3	3.3	3.1
	③	3.4	3.4	3.2
	④	3.3	3.4	3.1
健康・スポーツ	①	3.3	3.0	3.0
	②	3.3	3.1	3.0
	③	3.3	3.1	3.0
	④	3.3	3.2	3.2
	⑤	3.3	3.2	3.0
子ども	①	3.6	3.6	3.5
	②	3.5	3.5	3.4
	③	3.5	3.5	3.5
	④	3.4	3.4	3.3
	⑤	3.5	3.4	3.3
経 営	①	3.2	3.1	3.0
	②	3.2	3.1	3.0
	③	3.0	3.1	2.9
	④	3.1	3.1	3.0
	⑤	3.0	3.1	3.1
幼児教育 (学習成果 の達成度)	①	3.5	3.6	-
	②	3.6	3.5	-
	③	3.6	3.5	-
	④	3.5	3.4	-
	⑤	3.6	3.5	-

2. 学修内容がどの程度身についたのか

学修内容		大学平均				短大平均	
		2024	2023	過去4か年	2年次	2024	2023
1. 外国語能力		2.4	2.2	2.1	2.0	2.6	2.4
2. ICT リテラシー		3.0	2.9	2.8	2.8	2.9	2.9
3. 教養・基礎的スキル	幅広い知識と教養・一般常識	3.3	3.2	3.1	2.6	3.5	3.4
	レポートや論文を書く力	3.4	3.4	3.3	2.6	3.2	3.2
4. 専門知識・スキル		3.3	3.2	3.2	2.9	-	-
	(短大：保育の専門的知識や表現等)	-	-	-	-	3.6	3.5
	(短大：成長を見守り保育する姿勢)	-	-	-	-	3.8	3.7
	(短大：柔軟な対応力)	-	-	-	-	3.6	3.5
5. 社会人基礎力	自主性・主体性	3.3	3.2	3.2	-	3.5	3.5
	協働性	3.2	3.5	3.4	3.5	3.5	3.6
6. 総合力	課題発見と解決能力	3.3	3.1	3.1	3.1	3.7	3.4
	自分自身のものの見方・考え方	3.4	3.5	3.4	3.1	3.5	3.5
	プレゼンテーション能力	3.0	3.0	2.8	-	3.1	3.1
	コミュニケーション能力	3.2	3.3	3.2	-	3.5	3.5

3. 本学の取り組みについての満足度

本学の取り組み	大 学 平 均				短大平均	
	2024	2023	過去4か年		2024	2023
カリキュラム	3.1	3.1	3.1		3.5	3.4
授業の進め方	3.2	3.1	3.1		3.3	3.3
成績評価	3.2	3.3	3.2		3.4	3.3
留学制度	3.1	3.0	2.9		3.4	3.4
課外活動	3.0	2.8	2.9		3.4	3.2
学生支援（困ったときの支援）	3.2	3.3	3.2		3.5	3.4
就職支援	3.3	3.4	3.2		3.5	3.4
施設・設備	3.1	3.0	2.9		3.6	3.6
教員の対応	3.3	3.3	3.3		3.5	3.3
職員の対応	3.3	3.2	3.2		3.4	3.4

注 1：「身についた＝4、ある程度身についた＝3、あまり身につかなかった＝2、身につかなかった＝1」「満足＝4、ある程度満足＝3、やや不満＝2、不満＝1」とする加重平均による結果

注 2：過去 4 か年平均よりも 0.2 ポイント（小数点第 3 位）以上上昇している箇所を青地にて標記

注 3：2022 年度学修調査時の平均値

4. 学修内容がどの程度身についたのか（学科別・質問別比較）

学部学科	2-①外国語能力	2-②ICTリテラシー（情報通信技能）	2-③幅広い知識と教養・一般常識	2-④レポートや論文を書く力	2-⑤専門的な知識とスキル	2-⑤-1保育に携わるための専門的知識や表現等の技術	2-⑤-2子どもの成長を温かく見守り保育しようとする	2-⑤-3いろいろな状況に応じて行動する柔軟な対応力	2-⑥自主性・主体性	2-⑦課題発見と解決能力	2-⑧協働性（一緒に取り組む力）	2-⑨自分自身のものの見方・考え方	2-⑩プレゼンテーション能力	2-⑪コミュニケーション能力
国際学部 国際学科	3.6	3.1	3.4	3.3	3.2	-	-	-	3.6	3.2	3.2	3.3	2.9	3.2
応用心理学部 臨床心理学科	1.9	2.8	3.2	3.4	3.3	-	-	-	3.1	3.1	3.5	3.4	2.8	3.4
応用心理学部 健康・スポーツ心理学科	2.1	3.2	3.3	3.4	3.3	-	-	-	3.3	3.2	3.2	3.4	3.1	3.2
子ども学部 子ども学科	2.3	2.8	3.3	3.5	3.6	-	-	-	3.5	3.3	3.5	3.5	3.1	3.4
経営学部 経営学科	2.0	3.1	3.1	3.2	3.0	-	-	-	3.0	3.0	3.0	3.2	2.9	3.1
幼児教育科	2.6	2.9	3.5	3.2	-	3.6	3.8	3.6	3.5	3.5	3.7	3.5	3.1	3.5

5. 本学の取り組みについての満足度（学科別・質問別比較）

学部学科	3-①カリキュラム	3-②授業の進め方	3-③成績評価	3-④留学制度	3-⑤課外活動	3-⑥学生支援（困ったときの支援）	3-⑦就職支援	3-⑧施設・設備	3-⑨教員の対応	3-⑩職員の対応
国際学部 国際学科	3.1	3.1	3.2	3.3	3.0	3.2	3.2	3.2	3.2	3.4
応用心理学部 臨床心理学科	3.3	3.4	3.4	3.1	3.2	3.4	3.3	3.3	3.6	3.5
応用心理学部 健康・スポーツ心理学科	3.1	3.2	3.3	3.1	3.0	3.3	3.4	2.8	3.3	3.2
子ども学部 子ども学科	3.2	3.3	3.3	3.1	3.1	3.2	3.2	3.1	3.3	3.3
経営学部 経営学科	2.9	3.0	3.1	2.9	2.9	3.0	3.2	3.0	3.0	3.1
幼児教育科	3.5	3.3	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.6	3.5	3.4

注記4：学科内の設問間の上位2項目が青地、下位2項目を赤地にて標記

2024 年度卒業時アンケートにおける自由記述の概要

<対象となる自由記述の質問>

Q1 「これまでの大学生活の中で、これらの知識・技能が身に付いたと強く感じたエピソードを教えてください。」

Q2 「(これまでの質問以外に) 学生時代に得られた学修成果があれば記入して下さい。」

Q3 「学修成果を高めるために、本学の教育・学生支援のあり方について改善すべき点があれば記入して下さい。」

Q1 の調査結果

質問：大学生活の中で知識・技能が身に付いたと感じた場面

回答者：91 件（内訳 国際 7、臨床 17、健スポ 21、子ども 29、経営 17）

概要：学生の自己評価を基に、学修成果の可視化を目的に調査を行った。分析した結果、学修成果（知識・技能の修得）に影響を与えた行動が大きく以下の 3 つのトピックに分けられた。

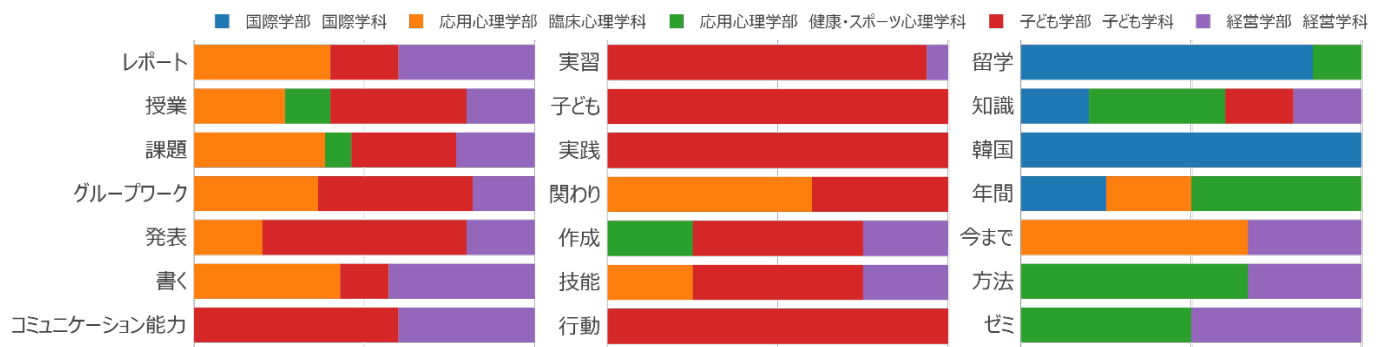
トピック 1：アクティブラーニング・課題（例：レポート作成、授業課題への取り組み、グループワークや発表）
に取り組んだことが学修成果に繋がったと感じた層

トピック 2：実習での経験が学修成果に繋がったと感じた層

トピック 3：留学での経験が学修成果に繋がったと感じた層

これらを意識して教育を行うことで、更なる学修成果の向上が期待できると考えられる。

各トピックの学科別の内訳（表 1）



[表 1 の解釈]

トピック 1：国際を除く複数の学科で学修成果が見られる

トピック 2：実習による学修成果は子ども学部で見られる

トピック 3：留学の学修成果は主に国際学部で見られる

Q2 の調査結果

質問：その他の学修成果

回答者：17 件（内訳 国際 3、臨床 3、健スポ 1、子ども 4、経営 6）

概要：語学検定等の資格取得を学修成果として上げる意見が見られた。

Q3 の調査結果

質問：改善すべき点

回答者：19 件（内訳 国際 2、臨床 4、健スポ 2、子ども 7、経営 4）

概要：出欠の取り扱いと成績評価に対する不満が複数件見られた。その他、授業改善に関する意見や、設備（冷暖房、WIFI）に関する要望があった。

* 各自由記述については、別添資料を参照

作成 企画・IR 室

「これまでの大学生活の中で、これらの知識・技能が身に付いたと強く感じたエピソードを教えてください。」

番号	学部学科	知識・技能が身に付いたと強く感じた場面
G-1	国際	1年間の留学から帰る頃には日常会話は問題がないくらいまで成長できたこと
G-2	国際	アルバイト先で韓国人観光客に話しかけられて案内できた時は、留学してよかったな～と思いました。
G-3	国際	専門スキルに関しては、この学部で身についたとは思いません。むしろ課外活動でかなり身についたと思っています。
G-4	国際	留学の中で、語学力はもちろん、互いに高め合おうとする力が身についた。頑張りによって(成績)奨学金をもらうことができる語学堂だったため、図書館に行ったり自習時間を長めにとったりと工夫した。一緒に頑張れる仲間がいたため、お互いに声を掛け合って、今日は図書館にこうするなど積極的に学業に取り組んだ。
G-5	国際	留学を通じて語学力を飛躍的に伸ばすことができた。
G-6	国際	留学行く前は全く韓国語が出来ませんでしたが、最初の半年間、徹底的に課題やテスト、復習をすることで少しは韓国で何とかできるような知識を身につけることが出来ました。また1年の留学で全く分からなかったところから日常的に韓国語が使えるまでになった。
G-7	国際	韓国留学の経験が自分にとってとても影響が大きく、韓国旅行だけでなく普段街中やアルバイト先で韓国人と対話する時に話すことができるのがとても嬉しい。
C-1	臨床心理	4年間オープンキャンパススタッフを行うことによって、能動的に動く力やコミュニケーション能力が身についたと思う。
C-2	臨床心理	グループで課題をしている時、自分の意見だけではなく、他人の意見を汲み取った意見をつくれるようになった。
C-3	臨床心理	レポートを書く回数が多かったため、レポートを書く力がついたと思う。
C-4	臨床心理	今までの学生生活では取り組んだことがなかった、学園祭実行委員やオープンキャンパススタッフに自主的に参加した。
C-5	臨床心理	今までは初対面の人に自分から話しかけに行くことが出来なかったけれど、大学生活を重ねていくうちに自然に話しかけられるようになった。
C-6	臨床心理	企業の内定者同士の懇親会で、会話が弾みました。大学に入る前は消極的で、人との会話を避けていました。ですが大学でコミュニケーション能力を身に付け、相手の情報を引き出せるようになったなと感じました。
C-7	臨床心理	分かりやすく体系的にプログラムを学ぶ事で、HTMLの技法が身についた。
C-8	臨床心理	実習先での振る舞いに心理学で学んだことが活かされたと感じた。
C-9	臨床心理	就活の仕事体験の時に他校の人とグループワークがあり、コミュニケーションをとりながら一緒に課題を解決しました。大学ではグループワークが多かったので、就活の時はあまり緊張せずにスムーズに行うことができました。自分のグループの発表や内容を企業の方に褒めていただけた時に、授業のグループワークで鍛えられたおかげだなと感じました。
C-10	臨床心理	心理学ということもあって今まで習ったことのない科目や授業を多く受けたことにより、沢山の新しい発見とより人への配慮を持つことができたと感じました。
C-11	臨床心理	心理実習と実証的研究の同時並行での学習で知識と技能片方に偏ることなく身につけることができた。

G-12	臨床心理	日常的な課題や学期末のレポート課題、テスト、ゼミ教員との相談や勉強会、実習とその報告、卒論とその発表
G-13	臨床心理	期末課題が殆どレポートだったことから、文章構成能力は着実に着いた。
G-14	臨床心理	特に心理実習の講義を通して他者との関わり方についてただコミュニケーションを取るのではなく、考えをもって相手に合わせた関わり方を取れるようになったことと、知識と経験が増えたことによりその関わり方の引き出しが増えたと感じたことが大学生活で成長したことだと思っている。
G-15	臨床心理	臨床心理学科では、グループワークを行う授業が多かったため、専門的な話し合いで考える力をつけられたと思います。
G-16	臨床心理	興味があることが多かったので自分から学びに行く機会が多かったです
G-17	臨床心理	複数の授業でレポートや論文を書く機会があり、自身の研究と考えを文章化しレポートにする能力が身についたため、卒業論文を執筆する際に見本となる文章なしでも自分で本文を執筆することができた。
H-1	健康・スポーツ	4ヶ月間のカナダへの留学
H-2	健康・スポーツ	4年間のゼミの授業を通して、プレゼンテーション能力が身についた。
H-3	健康・スポーツ	PTG 健康面へのアプローチ方法など。
H-4	健康・スポーツ	カウンセリングの授業を受講していたため、その後、人の相談に乗る時に自然と傾聴の3つの原則ができていると感じ、技能が身についていると実感できました。
H-5	健康・スポーツ	カウンセリング力
H-6	健康・スポーツ	サークルでコミュニケーションスキルが生かされて、サークル長を務められました。
H-7	健康・スポーツ	スポーツメンタルの分野で知識が身についた。
H-8	健康・スポーツ	たくさんの人と話せる力がついた
H-9	健康・スポーツ	パワーポイントの作成のスキルとプレゼン力が向上しました。
H-10	健康・スポーツ	ビブリオバトルと卒論
H-11	健康・スポーツ	卒業研究で、普段行わない行動をしたことで身についたと感じた。
H-12	健康・スポーツ	卒業論文を書き終えることができた
H-13	健康・スポーツ	同級たちと一緒にプレゼンに取り組んだりすることで、課題を強調して解決する機会に恵まれ、自身の新たなスキルとすることができた。
H-14	健康・スポーツ	大学4年間すごい大変だったけど楽しかったですいろんなことを勉強して新しいことをたくさん覚えましたこれからも卒業してもまた頑張っていきたいと思います。大学4年間ありがとうございました。
H-15	健康・スポーツ	富岡さんとたくさんお話したこと
H-16	健康・スポーツ	就活の強みになった
H-17	健康・スポーツ	心理学を利用してコミュニケーション能力に磨きがかかりました
H-18	健康・スポーツ	授業での知識はもちろんだが、ゼミの教授を中心に学科の教授との密なコミュニケーションによってコーチングのアプローチ法やクラブチーム運営の方法などを習得できたと思う
H-19	健康・スポーツ	授業の中でのディスカッションで、知らない人と話し合うことでコミュニケーションがある程度ついたと感じた
H-20	健康・スポーツ	留学をして多言語を学ぶことができた
H-21	健康・スポーツ	自分の祖母に対して健康に関して学んだことを伝えて必要な情報を提供したこと

K-1	子ども	4年間の保育実習を通して、子どもたちとの関わり方や子ども理解について1年の頃よりも身についたように感じた。
K-2	子ども	5回の実習を通して、大学で学んだことや経験を徐々に実践的なものに繋げられたと感じます。初めての保育所実習では、具体的な言葉かけや援助について分からない部分があったりどのような行動を取れば良いか分からなかったりしたが、最後の幼稚園実習では積極性を持って子どもの発達を考慮した関わりができたと思います。また、指導案を作成して責任実習なども行い、保育者としての実践力を身につけた点で大学での学びを実感できました。
K-3	子ども	6回に渡る実習を通して、様々な能力が身についた。
K-4	子ども	さなえせんせいの授業
K-5	子ども	はじめはレポートの書き方を調べながら書いていたが、4年間を通してレポートの書き方がスムーズになった経験から技能が身についたと感じた。
K-6	子ども	保育士としての技能が身についたと感じたのは、実習に行った時に子どもへの声掛けや対応が充分ではないができるようになっていたことであった。
K-7	子ども	保育実習や、教育実習などで実践した際に感じた。
K-8	子ども	入学以前は自主的に行動することが少なかったが、大学生活や授業、実習において、自ら行動し質問をするなどということが増えた。また、入学以前に考えていた考え方やものの見え方と、今の考え方やものの見方を比較してみると、異なった考えや見え方ができるようになったと考える。
K-9	子ども	全5回の実習は現場でしか経験できないようなこともあり、多くの学びがありました。
K-10	子ども	公務員試験
K-11	子ども	最初はレポートを書くことさえままならなかった自分が、4年の1月には卒業論文を書いて発表することができるまで成長した
K-12	子ども	卒業論文の調査研究・発表を通してこれらの知識や技能が身についたのではないかと感じています。
K-13	子ども	卒論作成の際、そもそも論文やレポートというものをどのようにして書くのかがやっとわかった。
K-14	子ども	各授業での発表や卒業論文の発表を通して、主にプレゼンテーション力が身についたと考える。また、自分で考えるだけでなく仲間の意見や発表を聞くことで様々なものの考え方や見方を学ぶことができた。
K-15	子ども	大学入学までは、コミュニケーションを取るのが得意ではありませんでしたでしたが、この4年間を通して、同じ仲間とチームで取り組む課題をこなして来たことで、コミュニケーション能力が上がったのではないかと思います。
K-16	子ども	子どもの姿や保育者の姿、保育現場、手遊びや子どもの援助について実習を通して身につけることができた。
K-17	子ども	実習での礼儀作法
K-18	子ども	実習を通して大学の講義と実際の現場でのギャップを感じながら自分なりに学びを深め、理解することができた。
K-19	子ども	実習先で、保育者の方々に礼儀ややる気の姿勢などを褒めていただいたこと。
K-20	子ども	実習前の実践演習がグループで模擬保育した際に実習で活用できた。

K-21	子ども	小学校実習を通して人前に立つときの話し方、コミュニケーション能力、先生としての言葉や行動の責任感、自分の考え方などがより一層身についたと思う。また、課題研究論文を作成することを通して様々な視点から考えることや論文を書きまとめる力が身についたと思う。
K-22	子ども	就職活動の面接の際、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身についたため、上手く行うことができた
K-23	子ども	授業でのグループワーク、卒論
K-24	子ども	授業でのグループワークで他の人と意見を交換し、協力しながら1つのものを作り上げた経験が協働性を身につけることにつながった。また、日々の課題や卒業論文を通して文章をまとめる力が身についた。
K-25	子ども	授業内でグループワークをする機会が多くあり、1つの課題を一緒に取り組むことで協働性が身に付いたと感じた。
K-26	子ども	授業内でのグループディスカッションや発表で協調性やコミュニケーション能力が身についた。
K-27	子ども	日々の授業での課題やグループワークで身についたと思う。特にグループワークでの発表はパワポや紙ベースでの提出で、そこから発表までしていたため、印象的であった。
K-28	子ども	私は作文や論文がとても苦手だったのですが、これまでの授業や卒論を通して書く力が身についたと感じた。
K-29	子ども	講義を通して、学んだ知識や技能を実習で生かすことで、実践力が身についた。
B-1	経営	1年の時と4年生の時のレポートの書く速度や内容が変わった時です。
B-2	経営	Excel や Word の使い方が上達した
B-3	経営	グループワーク
B-4	経営	グループワークで話すのが上手くなった
B-5	経営	ゼミでのラジオ収録などの課外時間もすごく充実していた。
B-6	経営	ゼミ発表を何回もやることによって人の前で話すことに少し慣れることができました。
B-7	経営	ビジネスアイデアコンテスト等のプレゼンが必要な授業において、授業外の時間もグループのメンバーと集まって課題を仕上げたことで、協調性・自主性・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が培われたと感じた。
B-8	経営	レポートの作成にあたっての自主調べ
B-9	経営	レポートを発表する授業では、プレゼンテーション力が付いたことが実感することができました。
B-10	経営	中国語の講義を受け、その後自主的にアプリで学習している。
B-11	経営	各科目で課されるレポート課題に取り組むことを通して、レポートや論文を書く力が身に付いたと感じています。また、1年生後期に行われたビジネスアイデアコンテストでは、協働性やコミュニケーション能力、プレゼンテーション力が身に付いたと感じています。
B-12	経営	大学の学びを通して、スーパーや実店舗で販売方法に使われてる手法を自然と考察するようになった。今までは、エンタメをただ楽しむだけだったが、どのようにお客

		さんを楽しませる工夫がされていてどのようなメッセージ性があるのか、まで考えるようになった。
B-13	経営	実習や情報リテラシー等、パソコンを使った科目は知識や技能が身につけてるなと強く感じました。
B-14	経営	就活の面接での自己アピール
B-15	経営	法学分野の授業を通して、法学の知識が身についた。
B-16	経営	科目によってグループワークやプレゼンの機会が多くあった。課題はレポートを多く提出したため、レポートを書く力が身についた。
B-17	経営	部活動の最後のリーグ戦でシュートを決めた。

「(これまでの質問以外に) 学生時代に得られた学修成果があれば記入して下さい。」

番号	学部学科	その他学修成果
G-1	国際	国際的な歴史について詳しく知ることが出来ました。
G-2	国際	韓国語能力がはるかに上がった
G-3	国際	韓国語能力検定 5 級
C-1	臨床心理	授業内で「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅱ種」が取得できた。課外活動としてダンス部に所属し、学内外の舞台に立つことができた。
C-2	臨床心理	自己管理能力
C-3	臨床心理	資格を取得出来た
H-1	健康・スポーツ	傾聴力
K-1	子ども	グループワークや少人数の授業が多かったため、友達や先生との関わりが多く一方的な授業が少なくてよかったです。
K-2	子ども	まだ成果にはなっていないが、大学での講義で様々なことを考える中で外国籍や外国にルーツのある子ども、その保護者を支援するためにもっと外国語のスキルを高めたいと思って幼保英語検定を受けるために勉強しようと思っている。そういった常に学び続けることの大切さを大学で学んだ。
K-3	子ども	保育学を学んだ中で保育実習や幼稚園実習に行った際、座学での学びを通して実践して行うことができた。
K-4	子ども	子どもの虐待や日米の教育についてなど、今まで触れたり考えたりしたことがなかった幅広い問題について学ぶことで新しい知識を得たことはもちろん、さまざまな考え方を知ることができた。
B-1	経営	エンターテインメントの難しさを学んだ。
B-2	経営	パソコンを使う機会が多くあり、レポートを書く力などを身につけられた。
B-3	経営	就職活動に関するサポートが手厚く、就活で必要な立ち振舞や話し方などのスキルを身に付けることができ、社会人になっても使えるスキルが身に付いたと感じております。
B-4	経営	懸賞論文での賞をいただいたこと
B-5	経営	簿記 3 級を取ったことです。
B-6	経営	簿記の仕訳の知識
Y-1	幼児教育科	人の前に立って発表が多く経験になった
Y-2	幼児教育科	保育者になるにあたって、必要なこと大切なことをたくさん学ぶことができた。また、保育者のことを学ぶにつれ保育者になることがすごく楽しみになった。
Y-3	幼児教育科	努力することの大切さや1人ではなくみんなで協力し達成することの大切さを学びました
Y-4	幼児教育科	子どもの関わり方について
Y-5	幼児教育科	幼児体育指導者検定を取得したこと。
Y-6	幼児教育科	日誌や指導案の書き方について学ぶことができました。
Y-7	幼児教育科	自ら学ぶ

「学修成果を高めるために、本学の教育・学生支援のあり方について改善すべき点があれば記入して下さい。」

番号	学部学科	改善点
G-1	国際	成績の付け方をもっと明確にして欲しいです。
G-2	国際	質問内容とずれてしまうのですが、授業で使っていない空き教室の暖房・冷房を、昼休みの時間もつけていただきたいと思います。食事を摂る場所が少なく、空き教室で食べる日も多くあったのですが、教室が寒い、若しくは暑く、十分に休憩ができないこともありました。節電は大事なことだとは思いますが、2.3限の間の時間はすべての教室の冷暖房をつけていただきたかったです。
G-1	臨床心理	キャリア支援課やキャンパスライフ支援課が何をしているのかが分からなくて最初入りづらかった
G-2	臨床心理	ちゃんと学校に来ている人が損しないように出欠確認をもっとしっかりやって欲しい。
G-3	臨床心理	もっと学内の施設が賑やかになればいいなと思ったことが何回かあったので、カフェなどたくさん利用できる機会が多いといいなと思いました。また、英語が選択制だったため必修にした方がいいのかなと感じました。
G-4	臨床心理	講師に関しては、少なくとも授業中にキャバクラの話はしない方がいいと思います。
H-1	健康・スポーツ	今のままで十分だと感じました。
H-2	健康・スポーツ	教室の暖房・冷房のつく時間消える時間の改善、エアコン調節を教室ごとにしてほしいです。
K-1	子ども	Wi-Fi が繋がらないことがとても多い
K-2	子ども	丁寧に対応していただいたように思う。4月から90分授業ではなく100分授業になるが、学生や先生方の声は聞いた上で決定したことなのか分からない。学生が学びやすい、相談しやすいなどプラスな気持ちで大学に通い、学生それぞれが夢や希望に向かって進んでいける教育支援や学習支援を学生や先生方とともに今後も考え続けていってほしい。ありがとうございました。
K-3	子ども	保育のヒヤリハットの事例を実際に紹介したり事例からこの場合の対応などといった、実践的学びを座学の中でも取り入れる必要があると思う。
K-4	子ども	保護者や地域等への支援についてより詳しく・具体的にやりたかったです。特に保護者への連絡帳とかの書き方はやりたかったです。造形や表現の授業で子どもたちの気持ちとして楽しむ事ができたのはすごくいい学びになったのですが、それを初めてやる子ども達にどのように教えるのかも知りたかったです。ABCのクラス順で毎回1.2.3と時間割が決められるのを少し変えてほしかったです。また、学籍番号順で発表とかもたまには変えてほしかったです。
K-5	子ども	小学校免許取得の仕組みを見直した方が、色々な人に教員になるチャンスがあると思う。
K-6	子ども	課外時間にピアノ室で練習をしようと教務課からピアノ室の整理券をもらい、時間になったので鍵をもらいに行くとその曜日は使えないピアノ室だった。受付時のミスが明確であるため、他の部屋を貸すのかと思いきや、「あら！だめだね～！今日は諦めてくれる？」と笑いながら言われました。学修成果を高めるために練習したかったのですが、対応にとっても不満を感じます。

K-7	子ども	電話をかけた際の雰囲気が悪く、適当に受け答えされていると感じる。他大学から来ている教員の授業に比べ、東京成徳大学に在籍している教員の授業がつまらないため、内容が頭に入らず、スマホをいじる学生や寝ている学生が多い。(一部例外あり。)
B-1	経営	実践的な講義を増やすと、生徒の学修意欲があがり、理解力も高まると思う。個人的なレポート提出が多くあったが、グループ作業で1つの作品や提案を発表するような場がもう少しあればいいと思う。
B-2	経営	生成AIの活用について、学校側でガイドラインを定める必要があると感じています。生成AIは学習にも活用できる一方、課題のレポート等を作ることでもあるため、適切な成績評価を実現するためにも、学校側で利用のルールを決めることが必要だと考えます。できない場合は、生成AIの利用を禁止することも視野に入れるべきと考えます。
B-3	経営	講義が読み聞かせの教員があるので改善が必要。もちろん学生の質も目に余るものがあるため気持ち分かるが、それをコントロールするのも教員の役目の一つだと思うため、それを放棄している教員はプロではないと思う
B-4	経営	資格を取れば単位がもらえるシステムとかあればいいなって思いました。
Y-1	幼児教育科	コンビニがないのが昼休みを有効に使えない。学校に全然きていないのに単位をもらえるのは意味がわからないなぜ改善して欲しい。
Y-2	幼児教育科	とても満足です！
Y-3	幼児教育科	保育園や幼稚園以外の職場をいいものとししない方針を感じられたため、学生の選択が広がる支援をするべきだと思います
Y-4	幼児教育科	出席回数が足りていない人と出席回数が足りている人に対して、毎日学校に行き学んでいる人にとって、足りていない人は結局課題だけ出せば足りていなくても、卒業できてしまうのかなと思ってしまった。遅刻に対してゆるい授業もあったので、改善されれば嬉しいです。
Y-5	幼児教育科	授業に出席しているかどうかの確認は、ユニパではなく呼名で確認するべきだと思う。
Y-6	幼児教育科	施設実習中に授業が受けられないことを改善して欲しいです。授業を受ける権利があるのに、施設実習中だけの2コマ分が受けられないのはよくないと思うので、改善して欲しいです。また、パワーポイントのフォントが小さい先生が多く、見えづらく、文章がつつらと書いてあり見えづらいです。

「これまでの大学生活の中で、これらの知識・技能が身に付いたと強く感じたエピソードを教えてください。」

番号	学部学科	知識・技能が身に付いたと強く感じた場面
G-1	国際	1年間の留学から帰る頃には日常会話は問題がないくらいまで成長できたこと
G-2	国際	アルバイト先で韓国人観光客に話しかけられて案内できた時は、留学してよかったな～と思いました。
G-3	国際	専門スキルに関しては、この学部で身についたとは思いません。むしろ課外活動でかなり身についたと思っています。
G-4	国際	留学の中で、語学力はもちろん、互いに高め合おうとする力が身についた。頑張りによって(成績)奨学金をもらうことができる語学堂だったため、図書館に行ったり自習時間を長めにとったりと工夫した。一緒に頑張れる仲間がいたため、お互いに声を掛け合って、今日は図書館にこうするなど積極的に学業に取り組んだ。
G-5	国際	留学を通じて語学力を飛躍的に伸ばすことができた。
G-6	国際	留学行く前は全く韓国語が出来ませんでしたが、最初の半年間、徹底的に課題やテスト、復習をすることで少しは韓国で何とかできるような知識を身につけることが出来ました。また1年の留学で全く分からなかったところから日常的に韓国語が使えるまでになった。
G-7	国際	韓国留学の経験が自分にとってとても影響が大きく、韓国旅行だけでなく普段街中やアルバイト先で韓国人と対話する時に話すことができるのがとても嬉しい。
C-1	臨床心理	4年間オープンキャンパススタッフを行うことによって、能動的に動く力やコミュニケーション能力が身についたと思う。
C-2	臨床心理	グループで課題をしている時、自分の意見だけではなく、他人の意見を汲み取った意見をつくれるようになった。
C-3	臨床心理	レポートを書く回数が多かったため、レポートを書く力がついたと思う。
C-4	臨床心理	今までの学生生活では取り組んだことがなかった、学園祭実行委員やオープンキャンパススタッフに自主的に参加した。
C-5	臨床心理	今までは初対面の人に自分から話しかけに行くことが出来なかったけれど、大学生活を重ねていくうちに自然に話しかけられるようになった。
C-6	臨床心理	企業の内定者同士の懇親会で、会話が弾みました。大学に入る前は消極的で、人との会話を避けていました。ですが大学でコミュニケーション能力を身に付け、相手の情報を引き出せるようになったなと感じました。
C-7	臨床心理	分かりやすく体系的にプログラムを学ぶ事で、HTMLの技法が身についた。
C-8	臨床心理	実習先での振る舞いに心理学で学んだことが活かされたと感じた。
C-9	臨床心理	就活の仕事体験の時に他校の人とグループワークがあり、コミュニケーションをとりながら一緒に課題を解決しました。大学ではグループワークが多かったので、就活の時はあまり緊張せずにスムーズに行うことができました。自分のグループの発表や内容を企業の方に褒めていただけた時に、授業のグループワークで鍛えられたおかげだなと感じました。
C-10	臨床心理	心理学ということもあって今まで習ったことのない科目や授業を多く受けたことにより、沢山の新しい発見とより人への配慮を持つことができたと感じました。
C-11	臨床心理	心理実習と実証的研究の同時並行での学習で知識と技能片方に偏ることなく身につけることができた。

G-12	臨床心理	日常的な課題や学期末のレポート課題、テスト、ゼミ教員との相談や勉強会、実習とその報告、卒論とその発表
G-13	臨床心理	期末課題が殆どレポートだったことから、文章構成能力は着実に着いた。
G-14	臨床心理	特に心理実習の講義を通して他者との関わり方についてただコミュニケーションを取るのではなく、考えをもって相手に合わせた関わり方を取れるようになったことと、知識と経験が増えたことによりその関わり方の引き出しが増えたと感じたことが大学生活で成長したことだと思っている。
G-15	臨床心理	臨床心理学科では、グループワークを行う授業が多かったため、専門的な話し合いで考える力をつけられたと思います。
G-16	臨床心理	興味があることが多かったので自分から学びに行く機会が多かったです
G-17	臨床心理	複数の授業でレポートや論文を書く機会があり、自身の研究と考えを文章化しレポートにする能力が身についたため、卒業論文を執筆する際に見本となる文章なしでも自分で本文を執筆することができた。
H-1	健康・スポーツ	4ヶ月間のカナダへの留学
H-2	健康・スポーツ	4年間のゼミの授業を通して、プレゼンテーション能力が身についた。
H-3	健康・スポーツ	PTG 健康面へのアプローチ方法など。
H-4	健康・スポーツ	カウンセリングの授業を受講していたため、その後、人の相談に乗る時に自然と傾聴の3つの原則ができていると感じ、技能が身についていると実感できました。
H-5	健康・スポーツ	カウンセリング力
H-6	健康・スポーツ	サークルでコミュニケーションスキルが生かされて、サークル長を務められました。
H-7	健康・スポーツ	スポーツメンタルの分野で知識が身についた。
H-8	健康・スポーツ	たくさんの人と話せる力がついた
H-9	健康・スポーツ	パワーポイントの作成のスキルとプレゼン力が向上しました。
H-10	健康・スポーツ	ビブリオバトルと卒論
H-11	健康・スポーツ	卒業研究で、普段行わない行動をしたことで身についたと感じた。
H-12	健康・スポーツ	卒業論文を書き終えることができた
H-13	健康・スポーツ	同級たちと一緒にプレゼンに取り組んだりすることで、課題を強調して解決する機会に恵まれ、自身の新たなスキルとすることができた。
H-14	健康・スポーツ	大学4年間すごい大変だったけど楽しかったですいろんなことを勉強して新しいことをたくさん覚えましたこれからも卒業してもまた頑張っていきたいと思います。大学4年間ありがとうございました。
H-15	健康・スポーツ	富岡さんとたくさんお話したこと
H-16	健康・スポーツ	就活の強みになった
H-17	健康・スポーツ	心理学を利用してコミュニケーション能力に磨きがかかりました
H-18	健康・スポーツ	授業での知識はもちろんだが、ゼミの教授を中心に学科の教授との密なコミュニケーションによってコーチングのアプローチ法やクラブチーム運営の方法などを習得できたと思う
H-19	健康・スポーツ	授業の中でのディスカッションで、知らない人と話し合うことでコミュニケーションがある程度ついたと感じた
H-20	健康・スポーツ	留学をして多言語を学ぶことができた
H-21	健康・スポーツ	自分の祖母に対して健康に関して学んだことを伝えて必要な情報を提供したこと

K-1	子ども	4年間の保育実習を通して、子どもたちとの関わり方や子ども理解について1年の頃よりも身についたように感じた。
K-2	子ども	5回の実習を通して、大学で学んだことや経験を徐々に実践的なものに繋げられたと感じます。初めての保育所実習では、具体的な言葉かけや援助について分からない部分があったりどのような行動を取れば良いか分からなかったりしたが、最後の幼稚園実習では積極性を持って子どもの発達を考慮した関わりができたと思います。また、指導案を作成して責任実習なども行い、保育者としての実践力を身につけた点で大学での学びを実感できました。
K-3	子ども	6回に渡る実習を通して、様々な能力が身についた。
K-4	子ども	さなえせんせいの授業
K-5	子ども	はじめはレポートの書き方を調べながら書いていたが、4年間を通してレポートの書き方がスムーズになった経験から技能が身についたと感じた。
K-6	子ども	保育士としての技能が身についたと感じたのは、実習に行った時に子どもへの声掛けや対応が充分ではないができるようになっていたことであった。
K-7	子ども	保育実習や、教育実習などで実践した際に感じた。
K-8	子ども	入学以前は自主的に行動することが少なかったが、大学生活や授業、実習において、自ら行動し質問をするなどということが増えた。また、入学以前に考えていた考え方やものの見え方と、今の考え方やものの見方を比較してみると、異なった考えや見え方ができるようになったと考える。
K-9	子ども	全5回の実習は現場でしか経験できないようなこともあり、多くの学びがありました。
K-10	子ども	公務員試験
K-11	子ども	最初はレポートを書くことさえままならなかった自分が、4年の1月には卒業論文を書いて発表することができるまで成長した
K-12	子ども	卒業論文の調査研究・発表を通してこれらの知識や技能が身についたのではないかと感じています。
K-13	子ども	卒論作成の際、そもそも論文やレポートというものをどのようにして書くのかがやっとわかった。
K-14	子ども	各授業での発表や卒業論文の発表を通して、主にプレゼンテーション力が身についたと考える。また、自分で考えるだけでなく仲間の意見や発表を聞くことで様々なものの考え方や見方を学ぶことができた。
K-15	子ども	大学入学までは、コミュニケーションを取るのが得意ではありませんでしたでしたが、この4年間を通して、同じ仲間とチームで取り組む課題をこなして来たことで、コミュニケーション能力が上がったのではないかと思います。
K-16	子ども	子どもの姿や保育者の姿、保育現場、手遊びや子どもの援助について実習を通して身につけることができた。
K-17	子ども	実習での礼儀作法
K-18	子ども	実習を通して大学の講義と実際の現場でのギャップを感じながら自分なりに学びを深め、理解することができた。
K-19	子ども	実習先で、保育者の方々に礼儀ややる気の姿勢などを褒めていただいたこと。
K-20	子ども	実習前の実践演習がグループで模擬保育した際に実習で活用できた。

K-21	子ども	小学校実習を通して人前に立つときの話し方、コミュニケーション能力、先生としての言葉や行動の責任感、自分の考え方などがより一層身についたと思う。また、課題研究論文を作成することを通して様々な視点から考えることや論文を書きまとめる力が身についたと思う。
K-22	子ども	就職活動の面接の際、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身についたため、上手く行うことができた
K-23	子ども	授業でのグループワーク、卒論
K-24	子ども	授業でのグループワークで他の人と意見を交換し、協力しながら1つのものを作り上げた経験が協働性を身につけることにつながった。また、日々の課題や卒業論文を通して文章をまとめる力が身についた。
K-25	子ども	授業内でグループワークをする機会が多くあり、1つの課題を一緒に取り組むことで協働性が身に付いたと感じた。
K-26	子ども	授業内でのグループディスカッションや発表で協調性やコミュニケーション能力が身についた。
K-27	子ども	日々の授業での課題やグループワークで身についたと思う。特にグループワークでの発表はパワポや紙ベースでの提出で、そこから発表までしていたため、印象的であった。
K-28	子ども	私は作文や論文がとても苦手だったのですが、これまでの授業や卒論を通して書く力が身についたと感じた。
K-29	子ども	講義を通して、学んだ知識や技能を実習で生かすことで、実践力が身についた。
B-1	経営	1年の時と4年生の時のレポートの書く速度や内容が変わった時です。
B-2	経営	Excel や Word の使い方が上達した
B-3	経営	グループワーク
B-4	経営	グループワークで話すのが上手くなった
B-5	経営	ゼミでのラジオ収録などの課外時間もすごく充実していた。
B-6	経営	ゼミ発表を何回もやることによって人の前で話すことに少し慣れることができました。
B-7	経営	ビジネスアイデアコンテスト等のプレゼンが必要な授業において、授業外の時間もグループのメンバーと集まって課題を仕上げたことで、協調性・自主性・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が培われたと感じた。
B-8	経営	レポートの作成にあたっての自主調べ
B-9	経営	レポートを発表する授業では、プレゼンテーション力が付いたことが実感することができました。
B-10	経営	中国語の講義を受け、その後自主的にアプリで学習している。
B-11	経営	各科目で課されるレポート課題に取り組むことを通して、レポートや論文を書く力が身に付いたと感じています。また、1年生後期に行われたビジネスアイデアコンテストでは、協働性やコミュニケーション能力、プレゼンテーション力が身に付いたと感じています。
B-12	経営	大学の学びを通して、スーパーや実店舗で販売方法に使われてる手法を自然と考察するようになった。今までは、エンタメをただ楽しむだけだったが、どのようにお客

		さんを楽しませる工夫がされていてどのようなメッセージ性があるのか、まで考えるようになった。
B-13	経営	実習や情報リテラシー等、パソコンを使った科目は知識や技能が身につけてるなと強く感じました。
B-14	経営	就活の面接での自己アピール
B-15	経営	法学分野の授業を通して、法学の知識が身についた。
B-16	経営	科目によってグループワークやプレゼンの機会が多くあった。課題はレポートを多く提出したため、レポートを書く力が身についた。
B-17	経営	部活動の最後のリーグ戦でシュートを決めた。

「(これまでの質問以外に) 学生時代に得られた学修成果があれば記入して下さい。」

番号	学部学科	その他学修成果
G-1	国際	国際的な歴史について詳しく知ることが出来ました。
G-2	国際	韓国語能力がはるかに上がった
G-3	国際	韓国語能力検定 5 級
C-1	臨床心理	授業内で「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅱ種」が取得できた。課外活動としてダンス部に所属し、学内外の舞台に立つことができた。
C-2	臨床心理	自己管理能力
C-3	臨床心理	資格を取得出来た
H-1	健康・スポーツ	傾聴力
K-1	子ども	グループワークや少人数の授業が多かったため、友達や先生との関わりが多く一方的な授業が少なくてよかったです。
K-2	子ども	まだ成果にはなっていないが、大学での講義で様々なことを考える中で外国籍や外国にルーツのある子ども、その保護者を支援するためにもっと外国語のスキルを高めたいと思って幼保英語検定を受けるために勉強しようと思っている。そういった常に学び続けることの大切さを大学で学んだ。
K-3	子ども	保育学を学んだ中で保育実習や幼稚園実習に行った際、座学での学びを通して実践して行うことができた。
K-4	子ども	子どもの虐待や日米の教育についてなど、今まで触れたり考えたりしたことがなかった幅広い問題について学ぶことで新しい知識を得たことはもちろん、さまざまな考え方を知ることができた。
B-1	経営	エンターテインメントの難しさを学んだ。
B-2	経営	パソコンを使う機会が多くあり、レポートを書く力などを身につけられた。
B-3	経営	就職活動に関するサポートが手厚く、就活で必要な立ち振舞や話し方などのスキルを身に付けることができ、社会人になっても使えるスキルが身に付いたと感じております。
B-4	経営	懸賞論文での賞をいただいたこと
B-5	経営	簿記 3 級を取ったことです。
B-6	経営	簿記の仕訳の知識
Y-1	幼児教育科	人の前に立って発表が多く経験になった
Y-2	幼児教育科	保育者になるにあたって、必要なこと大切なことをたくさん学ぶことができた。また、保育者のことを学ぶにつれ保育者になることがすごく楽しみになった。
Y-3	幼児教育科	努力することの大切さや1人ではなくみんなで協力し達成することの大切さを学びました
Y-4	幼児教育科	子どもの関わり方について
Y-5	幼児教育科	幼児体育指導者検定を取得したこと。
Y-6	幼児教育科	日誌や指導案の書き方について学ぶことができました。
Y-7	幼児教育科	自ら学ぶ

「学修成果を高めるために、本学の教育・学生支援のあり方について改善すべき点があれば記入して下さい。」

番号	学部学科	改善点
G-1	国際	成績の付け方をもっと明確にして欲しいです。
G-2	国際	質問内容とずれてしまうのですが、授業で使っていない空き教室の暖房・冷房を、昼休みの時間もつけていただきたいと思います。食事を摂る場所が少なく、空き教室で食べる日も多くあったのですが、教室が寒い、若しくは暑く、十分に休憩ができないこともありました。節電は大事なことはと思いますが、2.3限の間の時間はすべての教室の冷暖房をつけていただきたかったです。
C-1	臨床心理	キャリア支援課やキャンパスライフ支援課が何をしているのかが分からなくて最初入りづらかった
C-2	臨床心理	ちゃんと学校に来ている人が損しないように出欠確認をもっとしっかりやって欲しい。
C-3	臨床心理	もっと学内の施設が賑やかになればいいなと思ったことが何回かあったので、カフェなどたくさん利用できる機会が多いといいなと思いました。また、英語が選択制だったため必修にした方がいいのかなと感じました。
C-4	臨床心理	講師に関しては、少なくとも授業中にキャバクラの話はしない方がいいと思います。
H-1	健康・スポーツ	今のままで十分だと感じました。
H-2	健康・スポーツ	教室の暖房・冷房のつく時間消える時間の改善、エアコン調節を教室ごとにしてほしいです。
K-1	子ども	Wi-Fi が繋がらないことがとても多い
K-2	子ども	丁寧に対応していただいたように思う。4月から90分授業ではなく100分授業になるが、学生や先生方の声は聞いた上で決定したことなのか分からない。学生が学びやすい、相談しやすいなどプラスな気持ちで大学に通い、学生それぞれが夢や希望に向かって進んでいける教育支援や学習支援を学生や先生方とともに今後も考え続けていってほしい。ありがとうございました。
K-3	子ども	保育のヒヤリハットの事例を実際に紹介したり事例からこの場合の対応などといった、実践的学びを座学の中でも取り入れる必要があると思う。
K-4	子ども	保護者や地域等への支援についてより詳しく・具体的にやりたかったです。特に保護者への連絡帳とかの書き方はやりたかったです。造形や表現の授業で子どもたちの気持ちとして楽しむ事ができたのはすごくいい学びになったのですが、それを初めてやる子ども達にどのように教えるのかも知りたかったです。ABCのクラス順で毎回1.2.3と時間割が決められるのを少し変えてほしかったです。また、学籍番号順で発表とかもたまには変えてほしかったです。
K-5	子ども	小学校免許取得の仕組みを見直した方が、色々な人に教員になるチャンスがあると思う。
K-6	子ども	課外時間にピアノ室で練習をしようと教務課からピアノ室の整理券をもらい、時間になったので鍵をもらいに行くとその曜日は使えないピアノ室だった。受付時のミスが明確であるため、他の部屋を貸すのかと思いきや、「あら！だめだね～！今日は諦めてくれる？」と笑いながら言われました。学修成果を高めるために練習したかったのですが、対応にとっても不満を感じます。

K-7	子ども	電話をかけた際の雰囲気が悪く、適当に受け答えされていると感じる。他大学から来ている教員の授業に比べ、東京成徳大学に在籍している教員の授業がつまらないため、内容が頭に入らず、スマホをいじる学生や寝ている学生が多い。(一部例外あり。)
B-1	経営	実践的な講義を増やすと、生徒の学修意欲があがり、理解力も高まると思う。個人的なレポート提出が多くあったが、グループ作業で1つの作品や提案を発表するような場がもう少しあればいいと思う。
B-2	経営	生成AIの活用について、学校側でガイドラインを定める必要があると感じています。生成AIは学習にも活用できる一方、課題のレポート等を作ることでもあるため、適切な成績評価を実現するためにも、学校側で利用のルールを決めることが必要だと考えます。できない場合は、生成AIの利用を禁止することも視野に入れるべきと考えます。
B-3	経営	講義が読み聞かせの教員があるので改善が必要。もちろん学生の質も目に余るものがあるため気持ち分かるが、それをコントロールするのも教員の役目の一つだと思うため、それを放棄している教員はプロではないと思う
B-4	経営	資格を取れば単位がもらえるシステムとかあればいいなって思いました。
Y-1	幼児教育科	コンビニがないのが昼休みを有効に使えない。学校に全然きていないのに単位をもらえるのは意味がわからないなぜ改善して欲しい。
Y-2	幼児教育科	とても満足です！
Y-3	幼児教育科	保育園や幼稚園以外の職場をいいものとししない方針を感じられたため、学生の選択が広がる支援をするべきだと思います
Y-4	幼児教育科	出席回数が足りていない人と出席回数が足りている人に対して、毎日学校に行き学んでいる人にとって、足りていない人は結局課題だけ出せば足りていなくても、卒業できてしまうのかなと思ってしまった。遅刻に対してゆるい授業もあったので、改善されれば嬉しいです。
Y-5	幼児教育科	授業に出席しているかどうかの確認は、ユニパではなく呼名で確認するべきだと思う。
Y-6	幼児教育科	施設実習中に授業が受けられないことを改善して欲しいです。授業を受ける権利があるのに、施設実習中だけの2コマ分が受けられないのはよくないと思うので、改善して欲しいです。また、パワーポイントのフォントが小さい先生が多く、見えずらく、文章がつつらと書いてあり見えずらいです。